

## 私のボランティア物語

### — ロゴと生きることで始まる人生 —<sup>1</sup>

松下敬子

#### 1. ロゴセラピーに出会うまで

私は静岡県浜松市で「木もれび内科クリニック」を開業している町医者。浜松に移り住んでもう38年になる。だが生まれも育ちも岩手県なので、思えば遠くに来たものだ。

昭和29年、戦後10年ほど経った時に教師の両親の長女として岩手山の麓に生まれた。生後1年経っても歩けなくて先天性股関節脱臼症と言われたとのこと。2歳になるまで股関節を開脚状態にして固定するギプスをはめていた。そのため私の目に見えるものとはとても限られていたのではないかと思う。

寝ている以外はおんぶの生活だから、目に見えていたのは、多分、母親やお手伝いさんの背中？後頭部？くらい。そのせいなのか、今でも人の顔を認識する能力が低いと感じる。

その極端な例がある。病院勤務をしていた時の事、朝出勤時のエレベーターで1人の患者に声をかけられた。「先生、やっと入院できました。検査の方よろしくお願いします！」と言うのだが、私は全くその患者の顔を覚えていない。そのまま口にするわけにはいかず、「あ、はい、がんばりましょう！」と言い残し慌てて病棟へ急いだ。入院患者と主治医（自分）をチェックしてカルテを見る。そこではじめて自分が指示した心房中隔欠損症の患者だと認識することができた。患者に申し訳なく思った。

ちなみに、患者の「人となり」を確実に思い出させてくれ